

東日本大震災後の栃木県を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

3月11日以来ずっとお話をさせていただいているのは、東日本大震災後の大変な状況の中でどのように暮らしたらよいのか、勉強したらよいのかということです。

今日は、少し難しいお話になりますが、栃木県の経済をどのようにしたらよいかというお話をさせていただきます。

2. 私は、このままの状態が続けば栃木県の経済は腰砕けになる可能性があると考えます。とにかく、ものやサービスが全くといってよいほど売れず、売上げが立たないところが多いからです。特に、お客様がまったくと言ってよいほど訪れず、観光地は悲惨なようです。そこで皆さんに、中でも収入にあまり震災の影響がない公務員の方をお願いしたいことがあります。イベントの自粛も時には必要とは思いますが、できれば例年行っていた歓送迎会などの行事をすべての栃木県内の観光地で1泊2日あるいは2泊3日ぐらいで行い、お金を使っていたきたいのです。

3. 経済の状況をよくするにはお金を使っていたくのが一番大事なことです。給料が減っていない公務員や収入に影響のない方々が中心となって栃木県内の観光地に行き、1泊2日あるいは2泊3日をそこで過ごしていただきたいと思います。また、飲食店にも行き、楽しくお食事をして頂きたいと希望します。

4. それが、栃木県民として、県内で大変困っているところ・困っている方々に対してできる最大のことでと思います。少しでもお金に余裕のある方、つまり、収入が減っていない方は、今まで続けてきた行事を中止せず、また、消費の仕方をできるだけ変えずに栃木県内の観光地を利用して実施し、ぜひともお金を使っていたきたい。これは切実な願いですので、よろしく願い致します。

5. さらに、そこでチャリティーなどを催して少しでもお金を集め、被災地にお送りすることも大事なことでと思います。

6. 県内の観光地では、稼ぎ時の春休みに全くといってよいほど人が動いていません。このままの状態ですとゴールデン・ウィークに突入すると、県内の観光地は本当に大変なことになってしまいます。最悪の場合は、街自体が減んでしまう、企業倒産がどんどん起こってしまうという危機的な状況にありますので、そのようなところを助けるつもりでイベントの中止は避けていただけたらと思います。そして、県内の観光地でそれを実施していただくようお願い致します。

7. ただ手をこまねいて待っているだけではよいほうに向きません。観光地の方々にも頑張ってください、それを支えるために県民の皆さんにもゴールデン・ウィークにはどんどん県内の観光地に出掛けていただきたいと思います。そして、そこで心と身体を癒しながらお金を使っていたければ

ば、こんなに有難いことはありません。繰り返しになりますが、県内の観光地は本当に大変な状況を呈していますので、よろしくお願い致します。

8. さて、この厳しい経済状況の中で県内の一般の企業や会社はどのようにして生き残っていけばよいのでしょうか。
9. 被災地はこれからものすごい勢いで復興していかなければなりません。栃木県は被災地に一番近いのですから、被災地への救援の前線基地であるという考えを持つとよいと思います。ここからすべての仕事を持っていくのだと考えて、復興に関係する仕事が被災地にあれば、それを栃木県を起点にしてやっていくのも1つであると思います。
10. 「座して死を待つ」よりは、被災地に行って復興のお手伝いをする、そこで復興のための仕事をさせていただくことが大事であると思います。
11. 一方で、東京などの首都圏には疲れ切った方々がたくさんいらっしゃいます。ですから、週末は栃木県で過ごす、セカンドハウスは栃木県に持つというようになればよいと思います。また、60歳を過ぎると東京には住みにくいので移住したいと考えている方もたくさんいらっしゃいますので、その方たちに栃木県に住んでいただくのもよいと思います。これらも東京はじめ首都圏の方々の社会的問題を解決することになりますので、栃木県が生き残る1つの方法であると思います。
12. また、今後首都圏でも大きな災害が起こるかもしれないということで、例えばコンピュータのバックアップシステムをはじめとする様々なものを首都圏以外に移そうという動きが企業にあります。できれば、それらを栃木県に持ってきていただき、お預かりすることができるようになるとよいと思います。
13. 各仕事とも今までのようなやり方をしていたのではなかなか大変ですので、復興のお手伝いをする・首都圏に一番近い郊外という地の利を活かして世の中のお役に立つということを考えて仕事をすることも大事であると思います。
14. この春、3月19日に、大震災直後でありましたが、東日本高速道路の大変な御努力で東北道と北関東自動車道が全線開通しましたので、栃木県は復興支援の仕事が最もやりやすい地にあります。また、首都圏にも非常に近いところにあります。首都圏で不安を抱えながら仕事や生活を営んでいる方はたくさんいらっしゃいますので、その方々は週末に栃木県へ、セカンドハウスは栃木県へ、退職後は栃木県へ、また、企業のバックアップ機能は栃木県へ、本社機能や研究機能も栃木県へ、安心・安全の栃木県へという大キャンペーンを、県と各市町ががっちりスクラムを組み、また、企業やあらゆる組織がスクラムを組んで行うことが、栃木県を大変な状況から立ち直らせる1つのきっかけになると思います。あきらめたらおしまいですので、最後まであきらめずにやっていきましょう。
15. それから、学校に通う児童・生徒・学生の皆さんは、大変な状況の中で困難な生活をなさっている方が多くいらっしゃることを考えて、栃木県に避難されてきた方々と仲良くし、お友達になっていただきたいと思います。加えて、学生の本分は何かということを考え、学校の勉強や部活動、自分の勉強を真面目に行い、立派な学校生活・社会生活を送っていただきたいと思います。どうかよろしくお願い致します。

— 2011年11月11日記 —